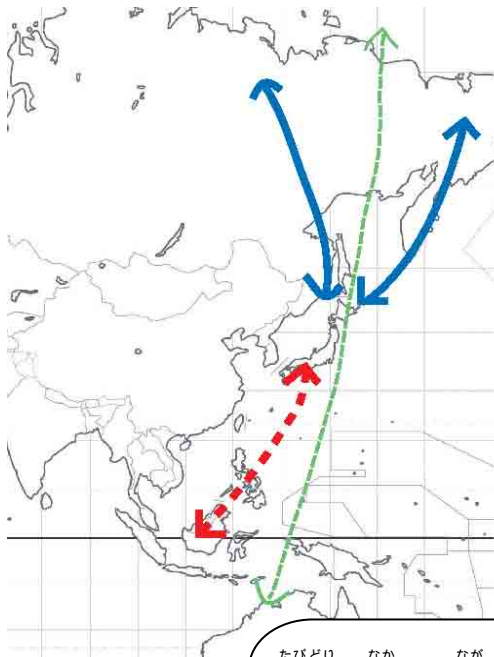


渡り鳥を調べよう！！

繁殖などのために、定期的に長い距離を移動する鳥を「渡り鳥」といいます。

種によって、渡る場所や距離はさまざまですが、主に食べ物の豊富な場所に渡っていきます。



渡り鳥の種類

— 冬鳥

越冬のために秋から冬にかけて、シベリアなど北の方から日本にやってきて、暖かい春になると繁殖のため、北の方へ戻っていきます。(次のページで紹介)

..... 夏鳥

繁殖のために日本より南の国から渡ってきて、夏を日本で過ごし、繁殖期が終わると再び越冬のために南の国へ渡ります。(日本ではツバメ、カッコウなど)

..... 旅鳥

日本より北の国で繁殖し、日本より南の国で越冬するため、渡りの移動の途中に日本を通過します。日本では主に移動時期である春と秋に見られます。

(日本ではチュウシャクシギ、ムナグロなど)

年間を通して同じ場所で暮らし、季節による渡りをしない鳥を「留鳥」と呼びます。(日本ではスズメ、キジバトなど)

旅鳥の中でも長い距離を

渡るキョクアジサシは、北

極圏から南極圏まで

移動するよ！



鳥がくらす環境

渡り鳥が生きていくためには、渡った先の環境だけでなく、渡る途中の環境も豊かでないとはいけません。

干潟や磯、池や里山など、鳥の食べ物となる生き物が生息できる環境を残していくことは、鳥だけでなく多くの生き物にとって重要です。

そのため、水鳥がくらす湿地を守るための国際条約(ラムサール条約)が締結

され、日本でも北海道の釧路湿原や琵琶湖など46カ所が登録されています。その他にも鳥獣保護区と呼ば

れる、鳥などの生物の保護や繁殖地を守ることを目的として指定されている区域があります。



にほん み ぶゆどり
日本で見られる冬鳥



マガモ (オス)



ヒドリガモ (前: オス、後: メス)



オナガガモ (前: オス、後: メス)



コハクチョウ



ユリカモメ



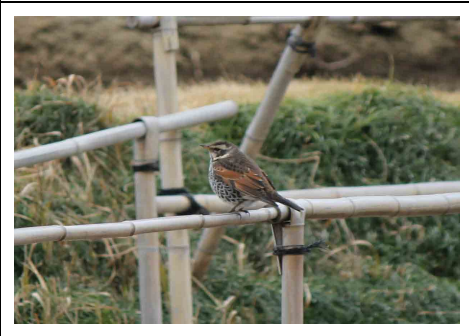
キンクロハジロ



ハマシギ





ジョウビタキ (左: オス、右: メス)

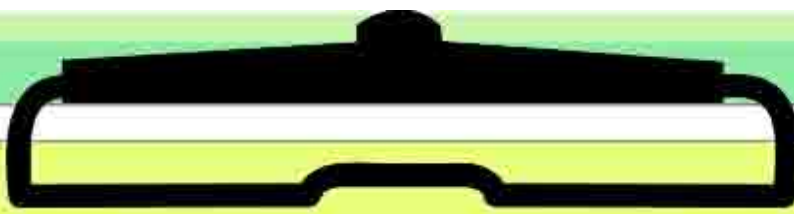


ツグミ

カモ類は、種類によって食べ物の取り方や体の作りが違います。その違いを観察してみましょう

	体の作り	えさの食べ方	飛び立ち方
 マガモ など	足が体の中央についていて、陸に上がると体が水平になります。	水面の種子や草を食べたり、水面で逆立ちをして水草などを食べたりします。	助走なしで、水面から飛び立つことができます。
 キンクロハジロ など	足が体の後方についているため、陸では体が起き、尾羽が下を向きます。	水中に潜って、砂底の貝などを食べます。	水中に潜って餌をとるカモ類は、助走をしないと飛び立つことができません。





や ちょうかんさつ
野鳥観察シート

スケッチ

スケッチ

月 日 ()

天気 気温

時間

場所

鳥の名前

鳥の様子

月 日 ()

天気 気温

時間

場所

鳥の名前

鳥の様子

